

編集・発行 金目川水系流域ネットワーク世話人会

発行日 2008年7月1日

金目川の水源地・春嶽湧水を訪ねるハイキング

日 時 平成20年7月13日(日) 午前9時～午後2時 (小雨決行)

集合時間・場所 集合時間 午前9時(時間厳守)
集合場所 小田急小田原線 伊勢原駅北口 (大山方面行きバス停前)コース 阿夫利神社下社(伊勢原駅から、バス及び大山ケーブルを使用) →
(関東ふれあいの道「大山参り養毛みち」(かながわ⑩コース)の一部)
→ 春嶽山水源地 → 下社 → 伊勢原駅(徒歩の所要時間 約4時間)

注意事項 弁当(昼食)、水筒、雨具及び天候により防寒具などをお持ちください。

(担当) 柳川 三郎 (Tel. 0463-59-2000)

夏休み 金目川の生き物観察会のご案内

日 時 平成20年7月31日(日) 午前の部 午前9時～11時
(小雨決行) 午後の部 午後1時30分～3時30分

集合場所 金目ふれあい広場(金目観音堂わき)

実施場所 金目川(観音橋付近)

内 容 川の中にすむ生き物調べ
ミニ水族館づくりなど募集人員 100名(午前、午後それぞれ50名)
(対象) 小学生(父兄などを含む)指導者 東海大学 北野先生
など 同大学生
主 催 協力 地元の人たち金目川水系流域ネットワーク
NPO東海大学地域環境ネットワーク
神奈川県湘南地域県政総合センター
平塚市

(担当) 柳川 三郎 (Tel. 0463-59-2000)

金目川流域の夏季水温調査への参加のお願い

日 時 平成20年8月16日(土) 午後1時から3時まで

調査地点 金目川流域の橋(44の橋ほか)
希望の橋(測定点)がありましたら、下記担当までお申し出てください。調査内容 ○バケツにロープを縛り、河川の水流通中心部をくみ上げて水温を測定してください。
○なお、測定にあわせ、橋上から上下流方向の写真撮影をしてください。
(ヨシの生態など、測定点付近の河川状況の把握、調査のため)

(担当) 柳川 三郎 (Tel. 0463-59-2000)

本日、茅ヶ崎のサポートセンターで拝見しました。
日頃、自分の思っているようなことが記載されており、応援させて戴きたい思い、Fax させていただきます。

今後も流域の改善に向け、ご尽力してください。ご活躍を期待いたしております。

以下、子供当時の経験と自然を大事にしたいことから本活動に関心を持ちます。

- ① 平塚旧市内に生まれ、大学を出てから平塚を離れ、国内各地を転々、定年で茅ヶ崎へ戻る。
- ② 一面の水田であった徳延に祖母がおり、東雲橋付近の金目川や用水路で水泳・魚採り・昆虫採りを昭和30年代に経験。
- ③ 室川上流の渋沢は、明治の神仏分離まで、曾祖父が水源を大事にする修験寺を経営した土地。

現在も関係した須賀神社・秋葉神社が残る。

また、支配下の修験寺が秦野の曾屋神社(旧井明神・曾屋村→秦野町の水源地)辺に存在した。

- ④ 渋沢の家は、渋沢中学が出来る以前、現在の秦野市水道の渋沢水源となっている辺りの山林を所有。

私も、昭和30年代にはクズカキや部落共同行事の川普請を経験、芹や沢ガニも沢山とれた。

- ⑤ 昭和初期から昭和30年代、上記水源から竹筒で部落の共同水槽に導水し、上から下へ、飲み水、食器洗い、野菜洗い、洗濯と利用していた。

水の運搬が非常にきつかった
(現在の「赤松沢(トラ沢)湧水」か?)



(今でも、曾屋神社の脇の「秦野市水道 曾屋配水池」の敷地内にある湧水を利用した「メダカの学校曾屋分校」がある。)

「本来の川の有り方は」

- 1 今の川は、単なる排水路。
危険予防フェンス、直角のコンクリート擁壁で人間と隔絶している。
将来に向けて、子供の時から水辺に親しめる身近な川に改良すべきでは。
- 2 金旭中学裏・飯島取水堰の完全締切の廃止
本堰が出来る以前、農業用水の需要が多くなると青年団等が導水を守るために夜警に出かけ、時には水争いもあった。現在は、農業用水もこの当時ほど必要ないと感じる。
夏場の砂漠化した河原でなく、下流にいくらかは水を流し、水生生物も棲める川と呼べるものとなればと思う。
- 3 花水川・金目川水系は、東京から下がってきて始めて自然を多く感じる。
人の入っていける身近な川である。
この状況を大事にして、決して今より悪化させてはならない。
- 4 県の河川行政任せではなく、貴会のような市民団体の声が、十分行政に届き、将来に向け、改善されればよいと思う。

私も入会して活動したい気持ちですが、現在は仕事・ボランティア活動で無理。

将来はよろしく。

(平成20年4月29日にいただいたものです。)

〇ご意見、ご感想、地域情報、入会希望などがございましたら下記までお寄せ下さい。

事務局 〒259-1201 平塚市南金目722-2 事務局あてのご連絡は、下記あてをお願いします。

柳川 三郎 Tel&Fax 04632(59)2000 E-mail sm-y@dab.hi-ho.ne.jp

(毎月第2土曜日の午後1時30分より例会を開催しています。是非ご参加下さい。)

参加自由 開催場所 事務局会議室(東海大学 J館406室)

(なお、7月12日(土)は例会を中止しますのでご注意ください。)



(白笹稲荷の境内にある芹沢湧水)

④ 芹沢湧水と白笹の泉：12:05

白笹稲荷の側。
流れ落ちる水の間を聞き、向こう側の切り立つ崖を見ると土に水がしみ出ている、手前にはミズキが白い花を付けていました。
かつての石臼等店頭に置いた、うどん屋で昼食を。

(うどん店の庭先にある「白笹の泉」)



⑤ いまいずみほたるぼしと向原湧水：13:31

緑の向こうに住宅地が見える立派な橋を渡りました。

向原湧水は、若木の中に草が生えた湿原で、陽光を浴び細く優しく水が蛇行して流れている様子がわかります。

金目川に合流する室川には、秦野盆地のこうした沢山の有難い湧水が流れているのですね。

前は田んぼだった様子で、カワニナのいる小川を大事にする事は、ひいては人間にも優しい自然保護ですね。



(向原湧水)



(室川にかかる「今泉蛸橋」)

(今泉遊水池)

⑥ 今泉湧水池 (今泉名水桜公園)：13:42

緑に隠れ、隣に太岳院。開花のずれた桜を楽しめそう。

住宅やマンションでは借景か。

コイのいる水は一方に流れ出て、秦野盆地の湧き水の豊かさに驚かされ、秦野駅には5分ほどで。



事業報告 — 室川中流域の現況と秦野湧水群探索の結果報告

今回の水源探索は、金目川水系のうち、秦野市内を流れる室川の中流域を中心として、この川の状態とあわせ、この中流域に存在する野湧水群との関係などを調査しました。

5月11日の早朝には、強い降雨ありましたが、10名参加の探索ハイキングがはじまった段階では、この雨もあがり、また調査中は薄い日照があるなどのハイキング日和になって、参加者の日頃の心がけの良さが証明されたところです。

以下、参加した者の感想などをとりまとめましたので報告します。
(報告者 宗近京子)



① まいまいの泉 : 10:55

かたつむりに似た形状で、水がらせんの滑り台を流れる様子は印象に残る。俗に「まいまいず井戸」とか。雨上がりで約2ヶ月前のやや寒い気温にも水温16度。飲みたくなる気持ちは抑えて。



(まいまいの泉)

② 小藤川湧水 : 11:03 (ことうがわゆうすい)

水温16度、化学的酸素要求量(COD)のパックテストでは、3本中2本が比較的きれいな値2[mg/l]の色を示し、場所により6[mg/l]も。小石に隠れていたか、サワガニが注目の的。



(住宅地域内にある小藤川湧水)

③ 和田英雄様宅の自噴井戸水 : 11:30

ふと立ち寄らせて頂いて。年間水温16度、数十mの地下から湧き出る水を、庭先の植物用ハウスにも活用。名水百選当時の本や葉書も見せて頂いた上に写真撮影。カップに水を入れ、試飲。



(和田宅に湧く自噴井からの地下水)